



広島女学院は 130 余年の歴史を持ちますが、同窓会は今年 100 周年を迎えました。

100 年前の日本、スペイン風邪が大流行し 1921 年までの間に大小 3 波を繰り返し、死者は推定で 48 万人に上ったそうです。文明も技術も進歩した 100 年後の現在、新型ウィルスは慣れ親しんだ習慣、生活様式を再び私たちに問いかけているようです。本年は、コロナ感染症拡大防止の観点から、大人数での会合を自粛しておりますが、いくつかのグッズは皆さまへのお披露目の準備も整いましたので、Web 上で紹介します。

錫の小皿 限定 50 枚 2,300 円 (ゆり工房)



寸法：横 12.5X 縦 8.5 センチ
見込みにあやめ



←定番の菓子皿で

アクセサリートレイとして→



中村百合恵さん (高 22)

立教大学文学部卒業。

大阪の伝統工芸である錫器に出会い、現代の暮らしに合ったモダンな皿や花器の製作に取り組んだ。

1997 年、ゆり工房を設立し、プロ作家に。その直後第 20 回ハンドクラフトフェアで新人賞を受賞。

“和心伝新” (和の心を新しく伝える) をコンセプトに、地元大阪・神戸、名古屋、東京などの都市圏で展示会を毎年開催中。

大阪西成区でのボランティアを依頼され、なんのためらいもなく駆け付けた。その時、女学院でのキリスト教の教えがしっかり体の中にあることを感じた。妹の籐作家、吉光みつえさん (高 25) と二人で“姉妹展”を開催。広島のデパートを始め全国各地で開催。